

帯広畜産大学同窓会報

第22号 平成27年8月 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内 帯広畜産大学 同窓会事務局発行

帯畜大冥利

福島県飯館村長

菅野典雄

(昭和45年草地)



帯広は私の第2のふるさとです。帯広畜産大学は私の淡い思い出の青春そのものであり、大切な大切な「このころのぼけっと」でもあります。

当時は、1学年180人の定員に女子学生は10人程度であった時代です。高い競争率の中であって、私もどき田舎者は番外組で何ら手も足も、そして口すら出ませんでした。しかし、しっかり2組のカップルが誕生したということですから、世の中には腕のたつ方もいるものだと嫌というほど思い知らされ、かつ「世の中はほとんど不公平そのもの」をしみじみと味わわれたほろ苦い青春でもありました。

寮生活の中での部屋回りの厳しさも経験させてもらいました。友との下宿生活中でのダルマストーブの石炭の暖かさも懐かしい思い出です。ジングスカンもずいぶん食べましたね。畜大オリジナルのタレのうまかったこと。卒業時にメニューのメモを持ち帰ったはずなのに、現在行方不明中です。大学生活のすべてが「心の豊かさ」を育ててもらった貴重な貴重な時間でした。さらに、もっと大切なことを学ばせていただきました。



それは、人としてのモノの考え方、捉え方です。

卒業後、自宅に戻り酪農経営にいそんでいたところですが、「農業の良さや豊かさはどこにあるのか、何なのか」とか「地方で生きる有利性はいかに？」等々、物事を深く考える習慣がつくようになったのも畜大を卒業故の経験があったからでありましょう。

「効率一辺倒」「スピーディーに」「お金がすべて」の戦後の価値観・ものさしだけで地方が栄えることはありません。「お金の世界」を追いかけている限り、地方は最終ランナーです。軸足を「いのちの世界」「このころの世界」に少し切り替えることによって、意気揚々と真ん中より前を走れるのではないのでしょうか。そんな強い想いが私の心と体に染みついたのも、畜大を卒業し酪農経営を営む中から私という人間が育まれたものと思っています。

今、原発事故による全村避難の中で、首長として対応に追われているところです。その対応の仕方・考え方すべてが畜大からの延長線上にあります。そして、大学の学長さんをはじめ、先生方や学生さん方からこの避難の中の私たちに、遠路にもかかわらず応援いただいているということ、これすべて帯畜大卒の冥利に尽きるというものです。応えるためにも、しっかりと復興を成し遂げなければならないと志を強くしているところです。



同窓会近況報告

会 長
由 佐 壽 朗
(昭和41年農化)



会報22号の発刊の時期となりました。
会員の皆様にはお元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。

又日頃より母校帯広畜産大学そして同窓会に深いご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

振り返れば「米の配給手帖」を持って狩勝峠を越え帯広に降り立ってから50余年の歳月が流れました。1日3食80円の寮食で神様の4年生、四足獣の1年生と変なつながりの中で大人の秩序が保たれていました。それぞれの実家から送られた「差し入れ」で夜毎にコンパが繰り返されました。一滴も飲めなかったアルコールも今では365日の晩酌です。健康を考えて「うるう年」の2月29日は休肝日と自分なりの法律を作っています。

ラグビー部をはじめ多くの友人を得ました。心の広い先生方に育てられてはや「林住期」の真ん中です。

今は、同窓会の方々に人生の得難い経験をつまらせてもらっています。

さて帯広畜産大学は「国立大学改革」という大きなうねりの中で更なる飛躍を期待されております。

全86国立大学が「地域活性化」「世界最高水準」「特定分野重点」の3つの中から目指す方向性を選び、競い、評価され結果によって翌年度の運営費交付金の額を変動されるという厳しい選択を迫られています。04年の法人化以来、自立的な運営が求められ毎年1%ずつ交付金がへらされている最中にてあります。長澤学長のリーダーシップのもと方向が決定されると思われます。私共同窓生は出来るだけ地域の同窓会に顔を出し、時には母校を訪れ旧交を暖めることが大きな後押しになるのかも知れません。

今校内には国内有数の企業数社が畜大発展のために連携し、その輪は広がっています。原虫病研究センターがOIE（国際獣疫事務局）のコラボレーティングセンターに認定され、更に今秋には最新の設備を持つ動物臨床棟が完成するそうです。

国立大学で4番目に広いキャンパスを持つ帯畜大も新しい施設が続々と建っています。懐かしい「あづまや」の近くで白と茶の2枚毛の仔馬が生まれています。父親はアパルーサーです。白と芦毛のアパルーサー雑種の母馬の後を元気に走り回っていますよ。ここにはまだ自然の方が人間より大きな顔をしている場所が沢山残っています。会員の皆さん是非母校を訪れて確かめて下さい。

大学近況報告

学 長
長 澤 秀 行
(昭和53年獣医)



平成20年1月1日に学長に就任し、今年で8年目になりました。同窓会報への学長としての最初の原稿には、「学生中心の大学づくりを進めたい」と書かせていただきました。従来の研究中心の大学、教員のための大学という方向性からの転換です。畜大固有の問題ではなく、国立大学における全国共通の課題でした。「学生中心」の意味は、学生をお客さん扱いするという意味では決して無く、大学は人材育成の場なので、学生に高い付加価値を提供するための教育、研究、社会貢献活動が必要であり、大学の全ての事業が「人材育成」に向かうべきという考えです。課外活動支援や就職支援、教育研究環境の整備も同じ思いで推進してきました。現在、色々と障害は有りつつも、全構成員一丸となって、目標達成に向けて着々と歩を進めているように思います。来年度からスタートする第3期中期計画期間においても、企業連携と国際教育連携により畜大の特色を存分に活かして「畜大型グローバル人材」を育成するという抜本的機能強化を進める大学として、その発展が文科省から大いに期待され、「優れた取組みを行う大学」として位置づけられています。

大学生協が毎年行う学生生活実態調査は、1963年に開始され今年は50回目を迎えます。全国82大学が参加し、約2万人の学生が協力しています。調査項目は多岐に渡りますが、今の畜大の学生気質を示す興味深い結果がいくつかありますので紹介します。「畜大を選んだ理由は学びたい専門分野があった 71%（他国立大 44%）」「サークル加入率 87%（全国4位）」などがある一方、生活費捻出に苦労し、単位取得に悩み、就職や進路に不安を持っているのは、どこの学生も同じようです。今も昔も共通の悩みかもしれません。特筆すべきは、「学生生活は充実しているか？」の問いに対して「充実している」が42%で全国第3位、「あなたの大学が好きか？」の問いには「好き！」と答えた学生が44%、「まあ好き」が52%で、「自分の大学が好きランキング、堂々の全国第1位」という結果でした。

今後とも、同窓生が築き上げた実績のもと、社会に高く評価される大学づくりを進めて参ります。私事ですが、学長として寄稿は最後となります。訪問させていただきました各支部の同窓会の皆様方には大変お世話になりました。ありがとうございました。同窓生の皆様には、引き続き、本学に対するご支援ご協力、よろしくお願い申し上げます。

同窓会員の皆様へ
ご挨拶です

理 事
門 屋 充 郎



私は、昨年1月から外部理事として就任いたしました。

私は若いときからまちづくりと教育に強い関心がありました。20年以上前から帯広市の総合計画策定などに関与し、大学誘致などについての議論に参加し、今は帯広市の教育委員をしています。私の持論は大学誘致ではなく畜大を帯広・十勝圏域の誇るべき学府とし、地域と連携し相互協力によって双方の利益となる関係作りが重要と考えてきていました。畜大はこの地域の主産業である農畜産業の振興と課題解決の知恵袋として、農業現場から研究に役立ててもらおう双方向の利益追求型連携を望んできていたのです。「十勝高等教育まちづくり会議」は今年度本格的に畜大を帯広・十勝の高等教育の核と位置付けました。近年帯広・十勝は高度な農業集積地構想としてのフードバレイ構想を掲げ官・民・学連携を柱とした地域づくりを始めています。畜大はその核の重要な一つ柱として大きな期待が寄せられているのです。畜大は市民にとって大変身近になりました。それは国内の大学で初めて取得したハサップの認証のもと製造されるおいしい畜大牛乳とアイス、企業連携による地産地消のパンの開発と販売、学生の各種イベント企画、障害者乗馬などなどが市民の畜大への関心を深めているのです。大学が地域に出ていくという複数企業との連携による「まちなか」活動拠点づくり「十勝カレッジSIL0」という活動も始まりました。市街地に研究室や講義室を設け、学生への住居提供によりまちなかに暮らしてもらい、市民との交流を通して学生と市民の人材育成等々が始まったのです。教員と学生が地域貢献・連携をしてくれる。多くの卒業生が地元企業・団体に活躍してくれている。同窓の方々が広く全国で活躍してくれている。歴史ある畜大の存在が帯広・十勝では大変大きくなっていきます。畜大が市民の誇れる学府となっていることの概要を同窓の皆さんにご報告し挨拶とします。



宮城県支部の近況

宮城県支部長
笠 井 晋
(昭和42年酪農)

平成26年10月31日に支部総会・懇親会を仙台市内のホテルを会場に、19名の会員の参加にて行われました。冒頭に、昨年度名簿より3名の物故者（鹿又久雄氏（S20獣医）、藤谷哲氏（S31酪農）、安長正広氏（S31酪農））が判明し、しばしの黙祷の後、開会となりました。当日は、母校より長澤学長にご臨席をいただき、挨拶とともに母校の現況についてお話をいただきました。また、今回は客員として栃木県在住の泉俊之氏（S41酪農・S40年度剣道部主将）が飛び入りにて参加してくれました。泉氏は、栃木県下野市にて農園経営とのことです。長澤学長にはしっかりと2次会にも参加していただきました。

宮城県支部会員の動向として特筆すべき事は、2015年春の褒章受章者として学術や芸術で活躍した人へ授与される紫綬褒章に同窓の宮沢照夫氏が選ばれました。今回、紫綬褒章は日本全国で17名、宮城県からは1名が選出されました。宮沢照夫氏（S48農産化学、現東北大学未来科学技術共同研究センター教授）は、日本の食品学を先導し、昨今高齢化社会のなかで一番の問題である認知症の予防食の開発に尽力してこられました。同氏は、認知症患者の脳内では脂質のプラズマローゲンが通常よりも減少していることを発見し、食品から補充できないかと模索研究した結果、海産物で宮城県が全国の85%を生産するホヤにプラズマローゲンが含まれていることがわかり、認知症の予防食を開発しました。



鳥根県支部の近況

鳥根県支部長

久保田 政 男
(昭和32年獣医)



高等獣医、農専卒業の5名の先輩が他界されてから大学卒OBばかりとなり、鳥根県支部同窓会員は現在20名、若年層の参加者が少なくなり、リタイヤ組およびその予備軍のみとなりました。毎年同窓会を開催していましたが、少人数では開催が困難になったため、最近では広域の中国地区合同の同窓会（鳥取、鳥根、広島、岡山の中国4県（山口支部未設）で隔年持ち回り開催の合同同窓会）に便乗して、旧交を温めております。ちなみに今年は鳥取県支部担当で、鳥取自慢の温泉を楽しみにしております。

昨年度、鳥根県職を定年退官された益田邦郎氏（S51年獣医）が故郷の岩国市に帰られ、永い間鳥根県支部の運営にご協力いただいていた経験を活かし、山口県支部設立にご尽力いただけるものと期待しております。

最後に、母校の獣医学科に一言苦言を呈したい。日本獣医師会雑誌4月号によると、第66回獣医師国家試験の結果が掲載されており、我が母校の帯広畜産大学の合格率は75%とあり、国立・私立の獣医師養成大学のなかで最低の合格率でした。畜産基地十勝に立地する唯一の国立畜産系単科大学として、全国各地からの獣医師を志望する学生の期待を裏切る結果となり、74年の伝統ある高等獣医学校以来の「知の創造と実践による実学教育」を標榜してきた帯広畜産大学の獣医学教育の評価が危ぶまれます。OBの一人として肩身の狭い思いです。激励を込めて“濁”

鳥取県支部の近況

鳥取県支部長

福本 幸久
(昭和46年獣医)



今年の2月22日に米子市皆生温泉で支部総会が行われ、太田垣支部長（昭和41年獣医）が勇退され、若輩であります小生が、支部長となりました。事務局は、小谷（旧多田）道子さん（平成6年獣医）に受けいただきました。小さな支部ではありますが、今後とも、宜しくお願いいたします。

また、昨年、鳥取支部会員でありました毛利崇氏（平成14年獣医）が隣県（鳥根県）の松江市内に動物病院を開業されました。合わせて宜しくお願いいたします。

支部総会は、会員相互の親睦を深める場でもありま

すが、今回は、会の中ごろから、会場の片隅で、太田垣支部長と畦地君（昭和50年草地）との囲碁対局（名人戦）が始まり、他の参加者の方から、私に形勢判断を求められたり、囲碁のルールを問われたり、囲碁教室を兼ねた公開対局となり、大変盛り上がりました。

結局、畦地君の勝ちだったかな？

うちとけた楽しい総会となりました。

次回はどのような会となりましょうか？

大阪支部の近況

大阪支部長

中川 欣三
(昭和41年酪農)

今年も恒例の同窓会大阪支部BBQが開催されました。

隣県の兵庫や滋賀からも同窓生が集い、約30名が豊中市の服部緑地公園に集い、盛大な野外コンパとなりました。昭和23年農芸化学卒の松下竹次郎さんは米寿にして初参加！他数名の初参加者もあり、同窓会活動の広がりが感じられとても有意義でした！

暮れの総会と違って野外イベントは、ご家族同伴の参加者が多いのが楽しいですね。畜大出身でないご家族様の理解を得る貴重な機会であるのかもしれませんが。お目付け役にと園児同伴で参加されたN獣医師。しらふで帰って行かれたようなので効果抜群です。

午前11時から夕方6時過ぎまで延々5時間の大コンパでしたが、一人の遭難者も出さずに無事終了。次の機会の約束をして解散。

大阪支部では、6月のBBQと11月の総会忘年会が恒例行事として定着しました。しかしコンパばかりじゃあ…ということで、同窓会主催ノンアルコールイベントも企画進行中です。実現出来たら来年報告します。



九州支部の近況

九州・沖縄支部長
深田 泰三
(昭和30年酪農)



毎年、南の果てから
「第2の故郷」北の大地を語っています

思えば遠くへ来たもんだ。昭和26年春、福岡から東京、青森、函館、汽車と連絡船に揺られ、札幌を横目に滝川を経由し、車窓から雄大な狩勝峠を眺めつつ、約3日掛かりで大平原の停車場に到着。先輩たちの大歓迎の中、十勝鉄道（通称カチテツ、昭和37年廃止）で広陵とした畜大校内へ。そして、馬小屋の様な木造の“碧雲寮”に落ち着いた。

自然派の私にとって、この地で4年間をとると、内心の不安は消え去り、心はずみ、胸おどる瞬間でした。紺碧の空、広大な大地、残雪輝く日高の山々、白樺林、郭公の鳴き声、スズランの香りなど。まさに、九州では味わえない異境の地でした。

さて、我が九州・沖縄支部は、会員182名で、毎年1回各県持ち回りで、総会を開催しています。昨年は、熊本県阿蘇・内牧温泉で、本年は、佐賀県・唐津を予定しています。

のんべえ集団のため、大半は懇親会に費やし、各々が、前段の青春を謳歌した体験を（注・強制送還？されたのか生誕地に住み着いた会員が多く、共感ありなのでしょう）縦繋がり、勉強の話はそこそこに、寮生活、クラブ活動、恋愛、そして大自然の話等々二次会、三次会へと、和やかに、楽しく、語り合っています。悩みは出席者の高齢化で、年々、少数精鋭の傾向になっていることです。

私も齢84ながら、老骨に鞭打って、まずは、あと3年、いや、世界ラグビー、オリンピックの東京大会まで頑張る所存です。また、昭和48年酪農卒岩城賞弘さんが、県農業指導功労者賞を受賞したことも申し添えます。

さてここで、残念なこととして、支部の存続が危うくなって来たこと。碧雲寮が消滅したこと。近代化し、昔の畜大の名残が、失われていったこと。を述べてむすびとします。

永遠なれ、
帯広畜産大学同窓会九州・沖縄支部！！



会員の声

畜大と十勝農協連

十勝農業協同組合連合会
専務理事
高橋 英三
(昭和50年酪農)



十勝農協連（十勝農業協同組合連合会）は、十勝地域の24の農協を会員とする地区連合会であり、関係機関と連携のもと、会員農協と農家組合員の生産現場を中心にサポートする事業を行っています。昭和23年の設立以来、生産に関わる指導業務を事業の柱としておりますが、近年においては食の安全安心を担保するシステムの一翼を担うほか、十勝産農畜産物のブランド化「Made in 十勝」と高付加価値化の推進、十勝農業のファン作りに取り組んでいます。

私は、畜大卒業と同時に十勝農協連に就職し農産課に配属となりましたが、当時の馬鈴しょは、ウイルス病がまん延して生産量が大幅に低下するなど大変な事態に直面していました。農産課では畑作物の生産指導の他に、種苗生産にも力を入れていましたので、私は種馬鈴しょを担当しました。お陰様で、職場の先輩・同僚と農協の大きな力により、種馬鈴しょの広域的な集約専門栽培の体制が出来上がり、ウイルス病の蔓延は完全に撲滅されました。現在の種馬鈴しょ生産は、全国の41%を占めており、全国から高い評価を頂いております。

私は十勝農協連在籍40年目を迎えた昨年、役員改選があり、稲村裕文氏（昭和40年農産化学科）、佐藤文俊氏（昭和44年酪農学科）に次いで、畜大卒3人目の専務理事に就任しました。また、十勝農協連は、正職員52名のうち畜大卒が33名、実に63.5%を占めております。職員には、常に生産現場において状況把握し問題解決を図るよう「現場主義」に徹し、職場や会員農協とのチームワークを大切にすよう求めています。これからも畜大にはお世話になりますので、どうぞよろしく願いいたします。

社会人4年目になって

北海道上川農業改良普及センター
富良野支所

火ノ川 祐 貴

(平成24年畜産科学課程環境農学ユニット)



私が大学を卒業し、本同窓会に入会して丸3年が過ぎましたが、まさか同窓会報の記事を書くことになるとは思ってもいませんでした。

私は当時の畜産科学課程環境農学ユニット工学コース(旧開発土木研究室)を卒業し、現在は北海道の普及指導員(旧称:農業改良普及員)として富良野で働いています。在学中は野球部と3年次にドンパや当時4年生の先輩数名と立ち上げた「あぐりとかち」という農業サークルにも加入していました。

現在の私の仕事である普及指導員は、農業者の方の農業技術・経営力の向上をサポートする職業です。私はこの職業について、大学3年次まで全く知りませんでした。地元が農村であったこと、在学中の農作業アルバイトやサークル活動を通じて漠然と「農家さんと一緒に働ける仕事がしたい」と考えていたころ、縁あってこの職業の存在を知り、採用試験の受験を決めました。

さて、仕事を始めて4年目を迎えました。最初の2年間は先輩職員にくっついて現地へ行き、先輩や農家さんから作物の栽培技術を学ぶことが多かったのですが、昨年から徐々に1人で任される仕事が増えてきました。今年度からは昨年以上にいろいろな仕事を任せてもらえるようになり、ほぼ毎日現場へ足を向ける日々を送っています。現在は富良野市と南富良野町の畑作物を担当しており、麦や馬鈴しょ、大豆などといった作物の調査や栽培試験などを行っています。忙しく感じることもありますが、現場で農家さんから「ありがとう」「助かったよ」などと感謝の言葉をいただけるたびに、この仕事に非常にやりがいを感じます。

最後に、仕事を始めてから感じたことが一つあります。それは、農業関係の業界には意外と畜大出身者がいるということです。職場、農協、役場、メーカー、農家さんなどなど思わぬところに同窓生がいます。名刺交換をして世間話をしているうちに相手の方が碧雲寮1階北ブロックの大先輩だったなんてこともありました。大学を卒業した後であっても、このような同窓のつながりが広がるのはすごいことだと思います。今後いろいろな縁やつながりを大事にしながら、北海道の農業の発展に微力ながら尽くしていきたいと思えます。

そんなことで、近況報告でした。

畜大卒新任教員の紹介

母校の発展に
夢乗せて

臨床獣医学研究部門

南 保 泰 雄

(平成5年獣医)



H26年3月より臨床獣医学研究部門に所属しております。S62入学の南保(なんぼ)泰雄と申します。これまで競走馬に関する研究を専門としてきました。未だ若輩者でございますがよろしくお願い申し上げます。

前職となる日本中央競馬会で東京、宇都宮、日高地方浦河と異動し、後半はサラブレッドの生産と研究を職務として過ごしてきました。日本は、戦後馬の飼養頭数が激減しておりますが、ことサラブレッド生産頭数は世界第5番目の生産大国です。近年では国産馬が世界最高峰のレースで優勝する日も遠くないと言われるようになりました。今後も馬を生産している小さな牧場のためにお役に立てるような調査研究と普及活動を継続することが本望です。

ここ20数年間、学生時代を振り返らずに一心に仕事をしてきました。久しぶりにみる母校の発展は目覚ましく、OBとして驚きを隠せません。本学は、学部や研究域とともに、原虫病研究センターなどの質の高いオンリーワンを目指す附属機関によって組織され、これらの施設は年々充実しています。今では平成生まれとなった学生らも、サポートメンバー等を組織した社会貢献活動や、体育会・サークル単位での地域貢献活動など、大学本部との連携を通じた活躍を多く目にする事ができ、本学の発展に寄与しています。

一方、小職の所属する分野では、社会的なニーズに即応できる質の高い獣医師の育成を図るとともに、国際的に比肩した教育の確立を目指した獣医学教育国際認証を5、6年以内に取得するという命題に向かって、関係者一丸となって邁進しているところです。本年10月には、大動物用のCT、MRI、牛と馬に分かれた手術室・処置室が完備された、東洋一の産業動物医療棟が学内に新たに開設されます。産業動物に特化した診断治療体制を確立し発展させるために、軽種馬産業で培った経験や関係を通じて微力ながら本学にお役に立てるよう努力したいと思います。

同窓会の皆様方におかれましては、今後とも帯広畜産大学を温かい目で見守っていただくとともに、機会がございましたらご家族ご友人とともに変貌を遂げた姿をみていただければと思います。喜んで施設をご案内させていただきます。

新任のご挨拶と 鈴木三義名誉教授の 退官祝賀会のご報告

畜産生命科学研究部門
萩谷 功一
(平成5年家畜生産科学)



本年1月1日採用の萩谷と申します。私は学部を卒業後、仕事をしながら大学院に入学し、平成13年に岩手大学連合大学院を修了しました。15年ぶりの帯広は、駅前の街並み、畜大の建物など以前と様子が違い、戸惑うばかりです。

私は家畜育種学研究室に所属し、学部で光本孝次現名誉教授、大学院で鈴木三義現名誉教授の指導のもとで乳牛の育種について学び、後の職業として、雄牛の凍結精液を生産・販売する民間会社、乳牛の血統登録を行っている日本ホルスタイン登録協会、農水傘下の独立行政法人であり、家畜の個体識別や遺伝的能力評価を実施している家畜改良センター、同じく農水傘下の北海道農業研究センターにおいて乳牛育種に関わってきました。それぞれの職場には畜大出身の先輩がおり、中でも家畜育種学研究室の諸先輩からたくさんの有益なご指導、ご助言をいただきました。社会に出るから、あらためて大学や所属研究室のつながりの良さ・強さを実感しました。

先日、大学院時代から卒業後まで私が誰よりもお世話になった鈴木三義先生の退官祝賀会が帯広で行われました。祝賀会には、遠路福島より参加された光本先生をはじめ、全国から70名を超える卒業生が集まりました。仕事などで参加できなかった卒業生からも多くのメッセージが寄せられました。

先生は、学部を卒業後42年にわたって畜大に勤務され、一貫して実学を重視した指導・研究を行い、輩出された多くの卒業生が畜産業界で活躍されています。先生の指導された家畜育種学の技術や知識は、社会に出てからその必要性を実感する卒業生が多く、私を含め何名もが社会人学生（先生いわく「出戻り」だそうです）として大学院に戻って来たことが先生の畜産業界への貢献を物語っているように思います。私も先生のように、「出戻り」が集まるくらい畜産業界で必要とされる研究・指導ができるよう心掛けてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



学生サークルの紹介（あぐりとかち）

畜産科学課程家畜生産科学ユニット2年

本山 真緒
曾田 春奈

こんにちは。あぐりとかちです。名前からも分かるように、あぐりとかちとは帯広畜産大学の農業系サークルです。このサークルに所属する学生は地域のイベントに参加したり、生産者である農家さんと交流したりと、多くの体験を通して十勝の魅力を発見し、発信しています。そして、ときには企業と連携した商品開発も行っています。

「十勝の魅力を発信する」といわれても、実際にどんな活動をしているか分からないと思います。なので、これからあぐりとかちの活動を詳しくご紹介していきます。私たちは十勝の食のおいしさや特色のある農業の魅力を、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思い、毎日活動しています。過去にはホコテンへの出店や麦音さんと協力して行った1000人ピザ、麦感祭への参加など十勝の食と農業に関するイベントへ参加しています。そして、「楽しかった」で終わるのではなく、来てくださるお客様にあぐりとかちの活動や十勝の魅力についての説明も行っています。また、イベントへの参加だけでなく、いつもお世話になっている外山農場さんの白小豆を使ったスイーツの商品開発を行い、お店で販売していただきました。多くの活動を通して、十勝の魅力を発信しているあぐりとかちですが、今までゼロから企画を立ち上げたことはありませんでした。そこで、以前、メンバーが東京で開催された「食と農林漁業大学生アワード」に参加したとき、「十勝に全国の学生を招待したい！十勝の魅力を知ってもらいたい！」という思いが芽生えたのをきっかけに、現在あぐりとかちでは全国の学生を対象にした十勝合宿というイベントを企画中です。畜大ツアーや農家で1日農業体験をする十勝ツアー、新鮮な朝もぎとうもろこしを堪能したり、あぐりとかちで作成した石窯を使ったピザパーティを行ったりする予定です。

このように十勝だからできること、十勝でしかできないことを追及し、あぐりとかちは日々活動しております。



畜大散策

本学眞方文絵さん（大学院畜産学研究科）が 日本学術振興会育志賞授賞

日本学術振興会育志賞の受賞が決まった本学大学院畜産学研究科畜産衛生学専攻博士後期課程3年の眞方文絵（まがた ふみえ）さんが、3月4日（水）日本学士院（東京・上野）で行われた授賞式に出席しました。

日本学術振興会育志賞とは、天皇陛下の御下賜金により、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することを目的として、平成22年に創設されたものです。

5回目となる今回は、全国の大学長および学会長から推薦を受けた157名の候補者から厳正な選考により18名の受賞が決まり、眞方さんは「乳牛の子宮内膜炎における感染細菌由来エンドトキシンによる卵巣機能障害の解明」に関する研究が高く評価されて選ばれました。

授賞式は、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、厳粛に

挙行され、授賞式後の記念茶会では、両陛下が眞方さんを含めた受賞者一人ひとりと和やかにご歓談されました。



受賞された眞方さん

「十勝カレッジ SILO（サイロ）」事業を開始！

本学学生が中心となって帯広市中心部を舞台に、十勝地域の企業、住民などと連携し、世代や地域、国を超えて人々が出会い、学びあう「学びあいのコミュニティ」を創出し、地域の活性化を図ることを目的とする「十勝カレッジ SILO」事業を開始しました。

4月13日（月）十勝カレッジ本部（帯広市大通南11丁目 TRAD ビル1階）において、本学長澤秀行学長をはじめ「十勝カレッジ SILO」運営協議会構成員である六花亭製菓(株)小田豊代表取締役社長、TRAD (株)金澤秋代表取締役社長、(株)加藤家具店加藤正昭代表取締役社長が出席し、「十勝カレッジ SILO」の記者発表が行われました。

その後、「まちなか講義室」において、田勢康弘氏（ジ

ャーナリスト、音楽評論家、作家）をお招きして「十勝カレッジ SILO オープニング講演会」を開催しました。



金澤 TRAD 株式会社長、小田六花亭製菓株式会社社長、長澤学長、河野助教、加藤(株)加藤家具店社長（左から：十勝カレッジ本部前にて）

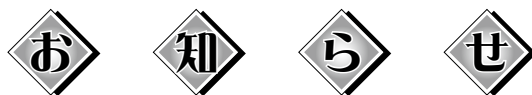
福永和男名誉教授が瑞宝中綬章を受章



平成27年春の叙勲の受章者として、本学名誉教授福永和男氏が瑞宝中綬章を受章されました。

福永先生は、教育研究功労者として永年に亘り草地学の分野において牧草種の選定、草地造成及び管理に関する研究を行われ、畜産・酪農振興の基盤となる草地造成の指針を示され、北海道を中心に日本各地で造成された、大規模公共草地の開発に多大な貢献をされました。

この度の受章は、これらの功績に対し受章されたものです。栄えある叙勲を受けられましたことをお祝い申し上げます。



総会および懇親会のご案内

平成27年8月吉日

帯広畜産大学同窓会会員各位

帯広畜産大学同窓会長
由 佐 壽 朗

平成27年度の帯広畜産大学同窓会総会と懇親会を下記の要領で開催いたします。会員各位のご出席をお願い申し上げます。

記

開催日時：平成27年10月3日（土曜日）午前11時より
場 所：帯広畜産大学 かしわプラザ1階

懇 親 会

開催日時：平成27年10月3日（土曜日）総会終了後
場 所：逍遙舎 会 費：4,000円

なお、大変恐縮ですが、総会、懇親会へご出席をいただける方のみ、同封のハガキに切手を貼り所定の事項をご記入の上、9月25日（金曜日）までに必着でご投函下さい。これも経費節減のためとご理解いただければ幸いです。

不明な点は事務局にお問い合わせ下さい。

なお、メールおよびFAXによる申込みも受け付けます。 E-mail：dousou@obihiro.ac.jp
FAX：0155-49-5996

同窓十勝会例会のご案内

同窓十勝会では、次のとおり例会を催すことといたしました。
多くの方々のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成27年10月3日（土）10時30分～
場 所：帯広畜産大学 かしわプラザ2階
問い合わせは、TEL：0155-24-2130

ウペペサンケ山遭難追悼会のお知らせ

帯広畜産大学山岳部の昭和36年厳冬期の東大雪山系ウペペサンケ山で起こった遭難事故から55年目に入り、半世紀を過ぎようとしております。山岳部では、遭難事故で失った関、小沢、宇佐美の3氏のご冥福をお祈りし、この哀しい出来事を教訓とするため「ウペペ参り」を実施してきました。しかし、近年、山岳部員の減少とOBの高齢化により、「ウペペ参り」の継続的に実施は難しい状態となっています。このため本年、区切りの「遭難追悼会」を十勝糠平温泉で開催し、心新たに3名のご冥福をお祈りするとともに、有志によってケルンの参拝や風化が予測されるケルンの補修・修復を行います。

関係者の皆様におかれましては、「遭難追悼会」へふるってご参加いただけますようお願いいたします。

発起人代表 三浦 弘之（昭和30年卒）
事務局代表 大澤 教男（昭和41年卒）

開催日時：平成27年9月19日（土）十勝糠平温泉糠平館観光ホテル「遭難追悼会」
9月20日（日）ケルンの参拝・補修（希望者のみ）

参加申し込み締め切り：平成27年8月28日

問い合わせ先：帯広畜産大学地域連携推進センター内 藤倉 雄司（平成3年卒）
TEL：0155-49-5786 E-mail：ytoukura@obihiro.ac.jp

釧路支部総会・懇親会のご案内

日 時：9月26日（土曜日） 18時より
 場 所：アクア・ベール（釧路市栄町8-3 TEL：0154-23-8211）
 会 費：6,000円

詳細は事務局まで

事務局：北海道ひがしNOSA I 阿寒釧路診療所 鮎川 TEL：0154-66-2711

訃 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。[敬称略]

伊藤 正十郎 (S18年 高等獣医)	角 谷 勇 (S25年 農専・農芸)	小 倉 紀 美 (S40年 酪農)
高橋 文 孝 (S18年 高等獣医)	北 村 秋 利 (S26年 農専・農芸)	滝 沢 実 (S41年 酪農)
竹内 敬 (S18年 高等獣医)	今 迪 (S25年 農専・農学)	末 安 洋 (S43年 酪農)
織 満 (S18年 高等獣医)	井 上 壽 (S26年 農専・農学)	山 内 章 良 (S46年 酪農)
羽賀 英 夫 (S18年 高等獣医)	金 谷 武 好 (S28年 獣医)	佐 藤 振 (S47年 酪農)
梅村 弘四郎 (S19年 獣医畜産)	森 田 茂 (S28年 獣医)	守 内 俊 章 (S50年 酪農)
保浦 義 彦 (S19年 獣医畜産)	及 川 公 博 (S29年 獣医)	辻 喜寿郎 (S54年 酪農)
倉本 光 尊 (S20年 獣医畜産)	柚 木 弘 之 (S29年 獣医)	山 島 由 光 (S38年 総合農学)
斉藤 常 吉 (S20年 獣医畜産)	菊 一 徹 (S30年 獣医)	神 戸 忠 夫 (S40年 総合農学)
速見 啓 悟 (S20年 獣医畜産)	和 泉 博 (S32年 獣医)	安 村 康 (S48年 農産化学)
名畑 武 男 (S22年 農専・獣医)	高 橋 皓 (S32年 獣医)	太 田 東 (S51年 農業工学)
青柳 和加男 (S22年 農専・獣医)	川 又 哲 (S38年 獣医)	竹 井 宏 一 (S54年 農業工学)
中林 律 雄 (S23年 農専・獣医)	三 宮 量 広 (S38年 獣医)	安 水 恭 徳 (S46年 草地)
石倉 公 昭 (S25年 農専・獣医)	山 田 紘 (S41年 獣医)	清 水 美緒子 (S59年 草地)
宮上 博 (S25年 農専・獣医)	村 上 隆 一 (S29年 酪農)	船 水 正 蔵 (S56年 院・草地)
丹後 勝 太 (S26年 農専・酪農)	鈴 木 峻 (S33年 酪農)	村 上 速 雄 (H12年 畜産環境科学)
田 中 正 (S23年 農専・農芸)	川 西 惇 溢 (S39年 酪農)	

*2014年11月から2015年6月までに、本部事務局にご連絡をいただきました。

協 賛 廣 告 の ご 案 内

来期の同窓会報より協賛広告を掲載いたします。来期は2016年11月頃に発行する予定です。自分の会社をお持ちの方！会社のトップの方！その他の方！協賛広告受付は2016年9月1日（木）が締切日です。多数の申込を、お待ちしております。

大きさと掲載料は下記の通りです。

1 枠：タテ40mm × ヨコ180mm

10万円（本校卒業生は5万円）

1 / 2 枠：タテ40mm × ヨコ85mm

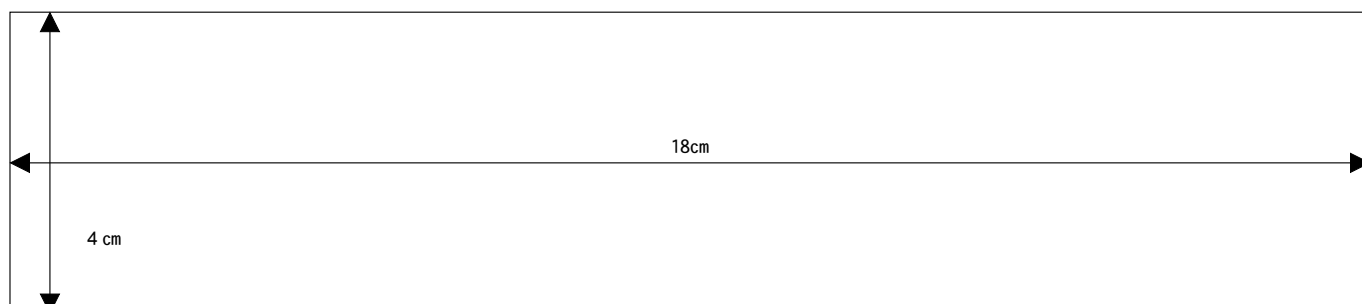
6万円（本校卒業生は3万円）

なお原則として、申込み1件につき、会報10部を贈呈致しております。広告料金のお支払いは、名簿と共に郵便振替用紙を送付させていただきますので、後日振り込みをお願い致します。

申込先：080-8555 帯広市稲田町 帯広畜産大学
 岸本 正

電 話：0155-49-5522 FAX：0155-49-5522

E-mail：tksm@obihiro.ac.jp



事務局だより

逍遙舎の使用について

「逍遙舎」は、同窓会員、職員、学生が相互の懇親などの交流の場として使用できます。利用を希望される方は、大学総務課にお申し込みください。

問合せ先 総務課総務係 49-5216
(平日8:30-17:15)

HP <http://www.obihiro.ac.jp/alumnus/syouyousya.html>

同窓会事務について

同窓会事務局は、事務職員の配置を取りやめ、その作業を帯広畜産大学生協に委託しました。なお、電話、FAX等は、これまでと同様ですので、お問い合わせは、下記をお願いします。

同窓会事務局 (平日8:30-18:00)
〒080-8555 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学内
電話: 0155-49-5996 FAX: 0155-49-5996
E-mail: dousou@obihiro.ac.jp
HP: <http://www.obihiro.ac.jp/~dousou/>

本学同窓会の終身会費の徴収方法について

現役学生の保護者の皆様へ

これまで帯広畜産大学同窓会では、会費の徴収方法として、入学時に入学者の皆様から同窓会への協賛金としていただき、卒業の時点で同窓会会員となった時にその会費を終身会費に変更させていただいておりました。しかし、その煩雑性と他の大学の状況を見たとき、現役学生も入学した時点において準会員の資格を与え、その結果として、入学時に終身会費をいただく

ことといたしました。なお、特別な事情で、途中で大学を去る場合においては、本人からの申し出において、終身会費を返納することは、従来と変わっておりません。また、昨年度からは、入学時に同窓会に住所開示の許可をいただいた保護者の皆様には、同窓会報の発送も行い、本学同窓会の活動をご覧になっていただくことにいたしました。このような事情で、昨年度より、現役学生の保護者様にも同窓会会報を発送いたしましたので、お気づきの点がありましたら、事務局までご一報ください。

また、本学の卒業生は、全国に散らばっており、現役の学生諸子の就職時にも、色々な分野の諸先輩の方々のお力も拝借できる体制となっています。その旨、ご子弟にお知らせいただき、同窓会事務局の先生方に連絡いただければ、全国の各支部に問合せを行うことも可能ですので、そのような観点からも同窓会を活用していただければ幸いです。

寄付金についてのごお願い

日頃同窓会へのご理解・ご支援誠にありがとうございます。現在本会は所得税法および法人税法上の寄付金控除の対象団体とはなっておらず、ご寄付をいただいた際に会員様が寄付金控除を受けることができません。平成23年に帯広畜産大学基金 (<http://www.obihiro.ac.jp/~u-kikin/>) が設立され、同窓生や地域の皆様からのご支援を受入れる仕組みができました。基金は本学の教育、研究、社会貢献事業に活用されています。基金に対するご寄付は寄付金控除を受けられます。皆様のご支援は基金の方へお願いします。

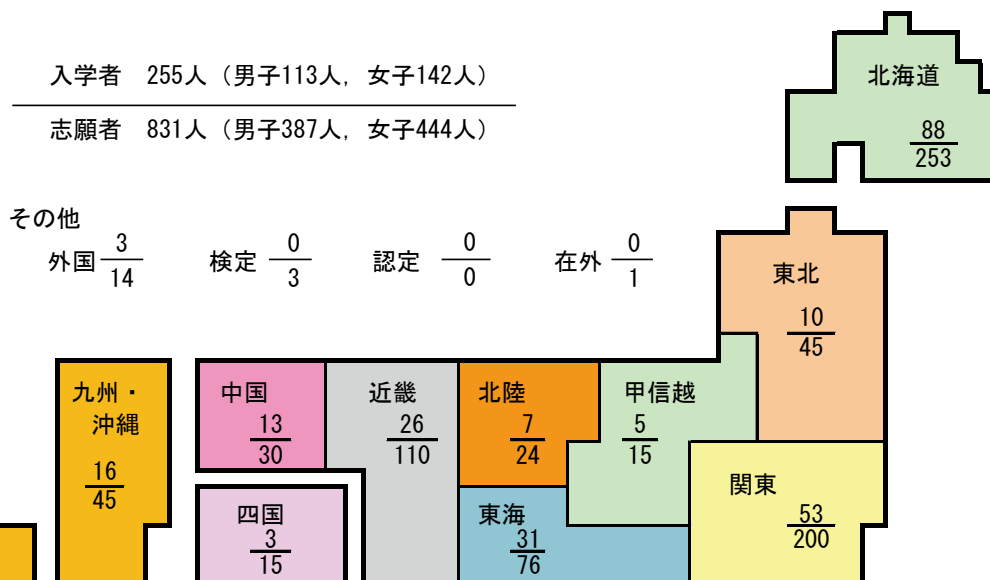
帯広畜産大学基金の振込先
ゆうちょ銀行 02780-7-98180
加入者名/帯広畜産大学基金

誠に勝手ながら今後本会宛に振込まれたご寄付につきまして、特にご指定の無い場合には基金へのご寄付として受入れさせていただきます。会員様にはご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

◆ 平成27年度学部地域別志願者・入学者状況

入学者 255人 (男子113人, 女子142人)

志願者 831人 (男子387人, 女子444人)



帯広畜産大学同窓会会則

昭和36年7月7日制定
平成5年10月16日改訂
平成9年10月18日改訂
平成11年10月23日改訂
平成13年10月6日改訂
平成19年10月13日改訂

第1章 総 則

- 第1条 本会は帯広畜産大学同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員相互の連絡と親睦、並びに帯広畜産大学の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 同窓会報の発行
 2. 同窓会名簿の発行
 3. 帯広畜産大学の後援
 4. その他本会の目的を達成するための必要な事業
- 第4条 本会の事務局は帯広畜産大学内に置く。

第2章 会 員

- 第5条 本会の会員は次の資格を備うるものとする。
1. 帯広畜産大学及びその前身の卒業生
 2. 帯広畜産大学畜産学専攻、大学院畜産学研究科、及び別科修了生
 3. 岐阜大学大学院連合獣医学研究科及び岩手大学大学院連合農学研究科の修了生で本学の講座に所属したものの
 4. その他代議員会で認めたもの
- 第6条 本会は帯広畜産大学及びその前身の同窓会以外の教員を特別会員とする。
- 第7条 会員は住所、その他の異動があった場合は、その都度本会に速やかに通知しなければならない。

第3章 役 員

- 第8条 本会は帯広畜産大学長を名誉会長に推薦する。
- 第9条 本会は次の役員を置く。会長1名、副会長若干名、事務局局長1名、庶務3名、会計3名、名簿編集委員3名及び監事2名。ただし、会長が必要と認めた場合は役員を追加することができる。役員会は前記の役員で構成し、本会の日常的な運営にあたる。本会は役員会の推薦により顧問を置くことができる。
- 第10条 会長及び副会長は代議員会において会員中より選出し、総会の承認を受けるものとする。その他の役員は役員会において会員中より選出し、代議員会の承認を受けるものとする。役員及び代議員の任期は一期二年とし、再選を妨げないが、会長の任期は二期を越えないこととする。
- 第11条 会長は本会を代表し、会務を統理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 第12条 事務局局長は庶務と共に会務を担当する。
- 第13条 会計は会費を徴収し、本会の資産管理と予算の適切な執行を担当する。
- 第14条 名簿編集委員は同窓会名簿の発行を担当する。本委員は名簿の編集の円滑化を計るため、名簿編集委員を委嘱することができる。
- 第15条 監事は本会業務の執行及び会計の状況を監査する。
- 第16条 役員会は会長が招集しその議長となる。本会は構成役員

の過半数の出席で成立し、会の議事は出席者の過半数をもってこれを決する。

- 第17条 役員会は支部等から若干名の代議員を委嘱し、重要な会務を審議するために役員と代議員とで構成する代議員会を置く。
- 第18条 代議員会は会長が招集しその議長となる。代議員の3分の2以上の署名により会議の目的事項を示して請求があったときは、会長は代議員会を招集しなければならない。代議員会は構成員の過半数（委任状を含む）で成立し、議事は過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第19条 代議員会は次の事項を審議する。
1. 予算及び決算
 2. 会費の変更
 3. 重要な資産の処分
 4. その他重要な事項

第4章 総 会

- 第20条 総会は通常総会と臨時総会とする。通常総会は原則として隔年で開催するものとする。臨時総会は代議員会において必要と認めるとき、また10分の1以上の会員の署名により会議の目的事項を示して請求があったときはこれを開くこととする。
- 第21条 総会は会長が招集し、その議長は会員中より総会で選出する。
- 第22条 次の事項は通常総会においてその承認を受けるものとする。
1. 会則の変更
 2. 役員人事
 3. 資産目録
- 第23条 総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
- 第24条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってこれに充当する。

第5章 資産及び会計

- 第25条 本会の重要な資産を処分するには、代議員会の決議を経て、総会の承認を得なければならない。
- 第26条 会員は終身会費として卒業または修了後速やかに20,000円を納めなければならない。但し、特別会員は会費を免除する。
- 第27条 本会の活動を支援していただく目的で、帯広畜産大学に入学される新入生に同窓会協賛金20,000円の納入をお願いする。この協賛金は卒業あるいは修了時に自動的に終身会費に切り替わるものとする。但し、何らかの事情で途中退学されたときには、本人からの請求があれば返金するものとする。
- 第28条 本会の会計年度は毎年10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

第6章 支 部

- 第29条 本会はその目的を達成するために、必要があるときには支部を設けることができる。
- 第30条 支部を設置しようとするものは、その代表者から本会に届け出なければならない。
- 第31条 支部は支部会において、特別の定めをすることができる。

付 則 この会則は平成19年10月13日から施行する。